



グローバルのPFAS規制動向と日本の課題

ユーロフィン日本環境株式会社
横浜PFAS事業部 PFASグループ
市嶋 浩樹

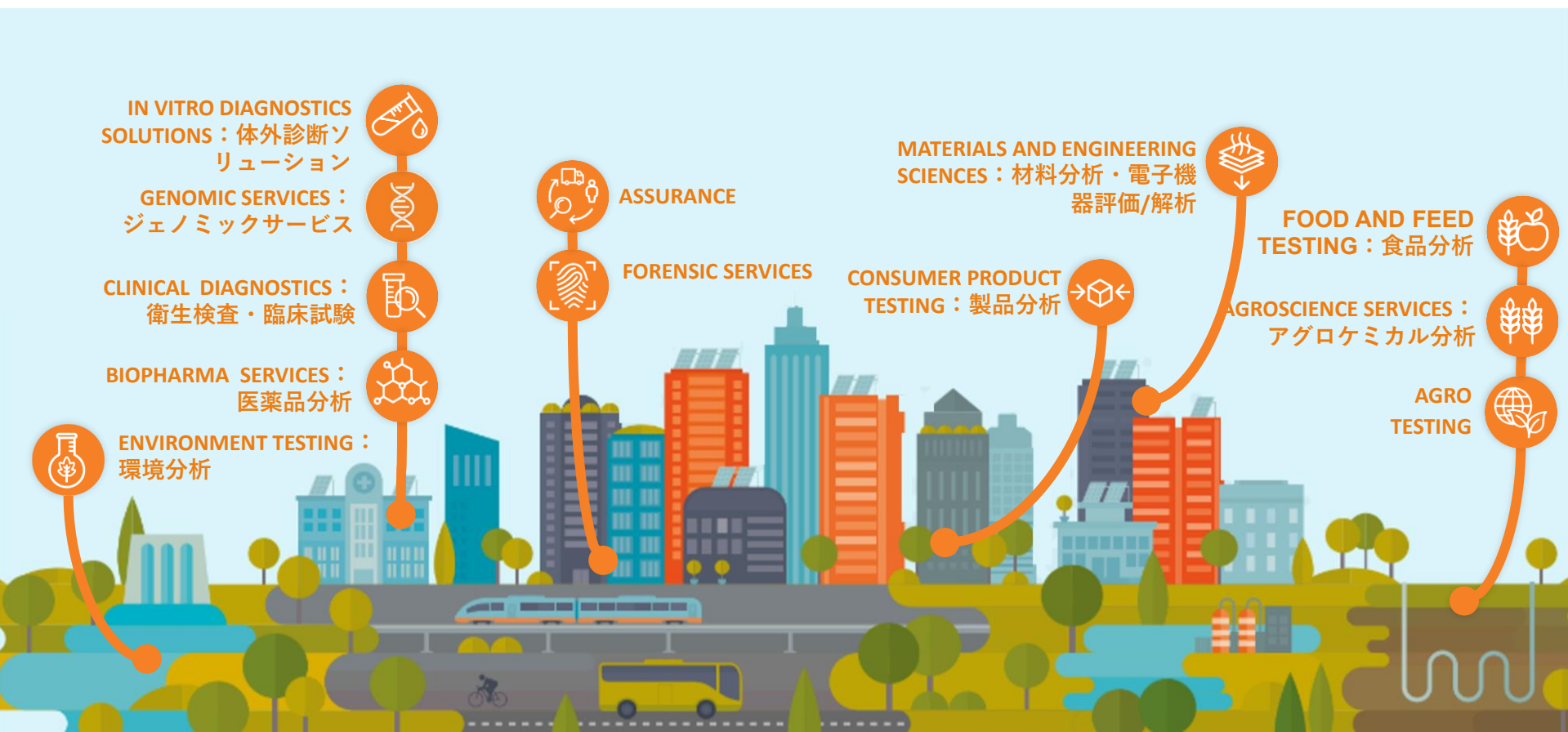
17th, February, 2026



- CONFIDENTIAL AND PROPRIETARY - © Eurofins Scientific (Ireland) Ltd [2020]. All rights reserved. Any use of this material without the specific permission of an authorized representative of Eurofins Scientific (Ireland) Ltd is strictly prohibited.

ユーロフィン・グローバルと日本環境株式会社の紹介

Testing for Life: 試験を通じて人々の生活を支えています



ユーロフィン・グローバル

Our Growth Story : 創業は1987年



社員数 : 3 → 約65,000 (4億5千万以上の試験・分析実施)
ラボ数 : 1 → > 950以上 (計59か国で展開)
分析項目・手法 : 1 → > 200,000以上通り

From **3**
employees

From **1**
laboratory in
Nantes, France

from **1** test
(SNIF-NMR)

to
200,000+
Analytical
methods

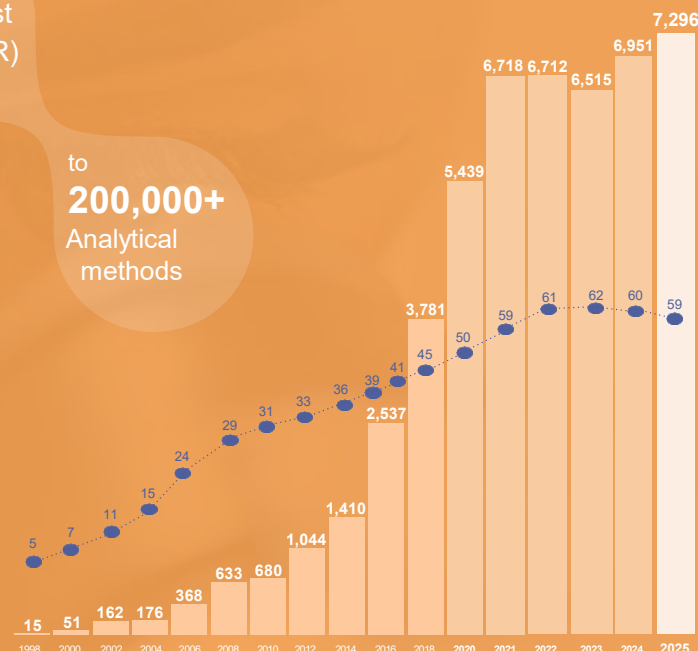
to
ca. 65,000
performing
over 450m
tests per year

to **950+**
laboratories in
59 countries
across
6 continents

€7.296bn

revenues in 2025

● COUNTRIES WITH LOCAL OPERATIONS
■ REVENUES IN EUR M
REVENUES SINCE OUR IPO



収益/2025 : 72億9600万ユーロ (約1兆2,400億円)

Location: 欧州を中心に、世界59カ国に展開

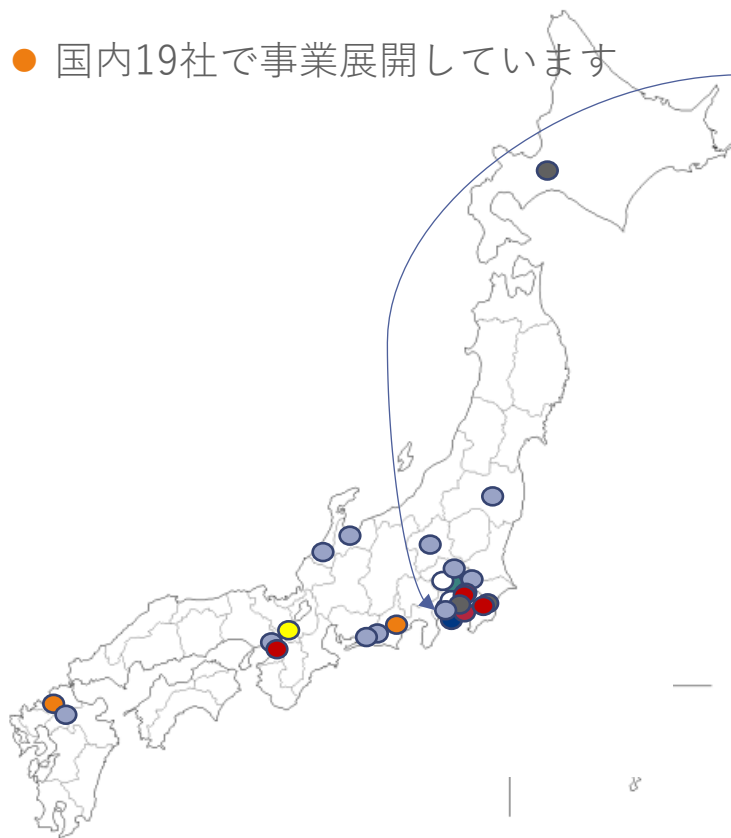


Data correct as of Jan 2026

For more information about our locations across the world visit: www.eurofins.com/contact-us/worldwide-interactive-map/

Location in Japan

- 国内19社で事業展開しています



- Food & Feed Testing
 - ・ ユーロフィン・フード・テストイング株式会社
 - ・ ユーロフィンQKEN株式会社
- Consumer Product Testing
 - ・ ユーロフィン・プロダクト・テストイング株式会社
- Environment Testing
 - ・ ユーロフィン日本環境株式会社
 - ・ ユーロフィン日本総研株式会社
 - ・ ユーロフィンアーステクノ株式会社
 - ・ ユーロフィン太平環境株式会社
- Agrosience Services
 - ・ ユーロフィンアグロ分析コンサルタント株式会社
- Genomic Services
 - ・ ユーロフィンジェノミクス株式会社
 - ・ Eurofins DNA Synthesis株式会社
- Clinical Diagnostics Services
 - ・ ユーロフィンクリニカルジェネティクス株式会社
 - ・ GeneTech株式会社
 - ・ ユーロフィンジェネティックラボ株式会社
 - ・ Eurofins Clinical Testing Services Japan株式会社
- Biopharma Product Testing
 - ・ ユーロフィン分析科学研究所株式会社
- Material & Engineering Science Services
 - ・ ユーロフィンイーエージー株式会社
 - ・ ユーロフィンFQL株式会社
- Shared Services
 - ・ ユーロフィン・エヌエスシー・ジャパン株式会社
 - ・ Eurofins NBLSC Environment Testing Japan株式会社



横浜本社／環境ラボラリー

社名	ユーロフィン日本環境株式会社
創立	1974年12月 2012年よりユーロフィングループ企業
代表取締役	木村 克年
資本金	5,000万円
所在地	神奈川県横浜市金沢区幸浦2丁目1-13
事業内容	■環境分析サービスを提供する環境計量事業 （土壌汚染調査・大気調査・水質調査・ダイオキシン・PFAS・PCB等） ■環境アセスメントをはじめとしたコンサルティング事業（騒音/振動調査・自然環境調査等）
従業員数	303名（2024年1月現在）

- 所在地 : 神奈川県横浜市金沢区幸浦2丁目1-13
- 敷地面積 : 1,800m² 延べ床面積 : 3,941m²
- ラボ従業員数 : 102名 (2024年1月現在) 全社307名

◆事業登録

- 計量証明事業登録

濃度(神奈川県第1号)、特定濃度(神奈川県第12号)、振動加速度レベル(神奈川県第2号)、音圧レベル(神奈川県第7号)

- 作業環境測定機関 (神奈川県14-26)

- 建築物空気環境測定業 (横浜市24空第31号)

- 建築物飲料水検査業 (横浜市25水第19号)

◆認定資格

- 試験所認定 (ISO/IEC17025:2017、RTL03980)

- 認定特定計量証明事業所【MLAP】 N-0054-02



◇主な資格保有者(ラボ内)

- 環境計量士21名, 作業環境測定士10名, 臭気判定士4名, 放射線取扱主任者2名

日本国内初 環境中のPFAS分析でISO17025の認定範囲取得 May 20, 2022

ユーロフィン日本環境の認定範囲

【水質】(工場廃水、環境水)

重量分析 (浮遊物質、n-ヘキサン抽出物質)
 容量分析 (COD_{Mn}、溶存酸素量)
 吸光光度分析 (六価クロム、アンモニウムイオン、フェノール類、全窒素、全りん、シアン化合物、ふっ素化合物、りん酸イオン)
 原子吸光分析 (水銀)
 ICP発光分析 (銅、亜鉛、マンガン、ニッケル、鉄、コバルト)
 GC/MS (VOC、1,4-ジオキサン)
 ICP-MS分析 (ほう素、銅、亜鉛、鉛、カドミウム、マンガン、ニッケル、ヒ素、クロム、セレン)
 イオン電極測定 (ふっ素化合物)
 イオンクロマトグラフィー (塩化物イオン、硝酸イオン、亜硝酸イオン、ふっ素化合物、硫酸イオン)
 GC (PCB、シマジン、チオベンカルブ、有機りん、アルキル水銀)
 HPLC (チウラム)
 フローインジェクション分析 (全窒素、全りん、りん酸イオン、六価クロム、フェノール類、ふっ素化合物、シアン化合物、亜硝酸イオン、アンモニウムイオン、硝酸イオン)
 BOD
 pH
 電気伝導率

【土壌】(溶出及び含有)

吸光光度分析 (六価クロム、ふっ素化合物、シアン化合物)
 原子吸光分析 (水銀、ヒ素、銅)
 ICP-MS分析 (鉛、カドミウム、セレン、ヒ素、ほう素)
 HPLC (チウラム)
 GC (PCB、シマジン、チオベンカルブ、有機りん)
 フローインジェクション分析 (六価クロム、ふっ素、シアン)

【大気】(環境大気、室内空気、排ガス)

原子吸光分析 (水銀)
 GC/MS (VOC、酸化エチレン)
 ICP-MS分析 (鉛、カドミウム、クロム、ニッケル、ヒ素、セレン、ベリリウム、マンガン、亜鉛、バナジウム)
 HPLC (ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、ベンゾaピレン)

【絶縁油】

GC (絶縁油PCB)

【ダイオキシン類】

水質・排ガス・環境大気・室内空気・土壌・底質・ばいじん/燃え殻



有機分析	ガスクロマトグラフ	【ガス分析、PCB、農薬 ...】
	ガスクロマトグラフ質量分析計	【VOC、農薬、有機化合物 ...】
	高速液体クロマトグラフ	【農薬、有機化合物 ...】
	高速液体クロマトグラフ質量分析計	【農薬、医薬品、有機化合物 ...】
無機分析	ICP発光分光分析計	【金属分析】
	ICP質量分析計	【金属分析】
	全自動酸分解前処理装置	【金属分析】
	水銀分析計	【水銀分析】
	気中水銀分析装置	【大気中水銀分析】
	オートアナライザー	【窒素、リン、フッ素、シアン、六価クロム ...】
	イオンクロマトグラフ	【陰イオン類（硝酸、硫酸、塩化物 ...）】
ダイオキシン分析	イオンメーター	【フッ素】
	自動前処理装置	【ダイオキシン前処理】
	二重収束高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計	【ダイオキシン】
一般分析、共通	赤外分光光度計	【油分 ...】
	全有機炭素計	【TOC】
	溶存酸素計	【DO】
	自動色度濁度計	【色度、濁度】
	元素分析計	【炭素、窒素、水素、硫黄】
	自動BOD測定装置	【BOD】
	落射型蛍光顕微鏡	【細菌類】
	分光光度計	【窒素、リン、フッ素、シアン、六価クロム ...】
	水素イオン濃度計（pH計）	【pH】
	電子天秤	【質量測定】
	純粋製造装置	【試験用水製造】



ガスクロマトグラフ質量分析計



ICP発光分析計



ICP質量分析計



オートアナライザー
(連続流れ分析装置)



二重収束型高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計



イオンクロマトグラフ

多様な試料に対し、多項目の分析サービスを提供

試料	分析法	項目数
水質（公共用水・地下水）	国内通知法	PFOS / PFOA / PFHxS / PFHxA
	EPA537.1 modified (ISO17025認定)	22項目
	EPA1633 (ISO17025認定) *国内初	40項目
	ISO21675	30項目
	迅速法：Rapid Test	44項目
土壌	国内暫定法	PFOS / PFOA / PFHxS
	EPA1633	40項目
	迅速法：Rapid Test	44項目
廃棄物	技術的留意事項（固形廃棄物分析）	PFOS / PFOA
	技術的留意事項（液体廃棄物分析）	PFOS / PFOA
排ガス	独自メソッド	35項目
	OTM-45 / OTM-50（海外連携）	50項目 / 30項目
	技術的留意事項（廃ガス）	

規制動向を踏まえ、製品・環境・食品・血液*までPFASの分析サービスを提供



61ヵ国以上のグローバルネットワークで
PFAS規制動向をウォッチ
お客様のご状況に合わせて、調査内容をご提案



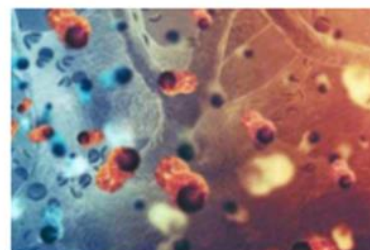
環境中のPFAS分析



製品中の
PFOS/PFOA/PFCA他
の分析



食品中のPFAS分析



PFAS 自己採取血液 検
査受託サービス（研究
用）



規制動向を踏まえた幅広い分析サービスの提供

*血液に関しては研究用です。診断目的に利用することはできません。

PFAS MEDIAでPFASに関する基本的な情報から最新情報まで発信中



EPA（米国環境保護庁）はどんな組織？PFAS規制の内容と併せて解説

投稿日：2024年5月21日



PFAS（有機フッ素化合物）の規制対象物質とは？主な種類や使用用途を解説



PFOSとPFOAの用途は？安全性に対する懸念も併せて解説



PFOSを含有する泡消火器とは？規制動向と廃棄について解説



有機フッ素化合物の毒性と環境への影響は？各国の規制も解説



TSCAの規制内容とは？法律の概要や報告の必要性について解説



PFAS（有機フッ素化合物）の人体への影響は？



日本において、PFAS（有機フッ素化合物）の規制は環境省が主体となって行われていますが、アメリカではEPA（米国環境保護庁）が主体となって進めています。同国における

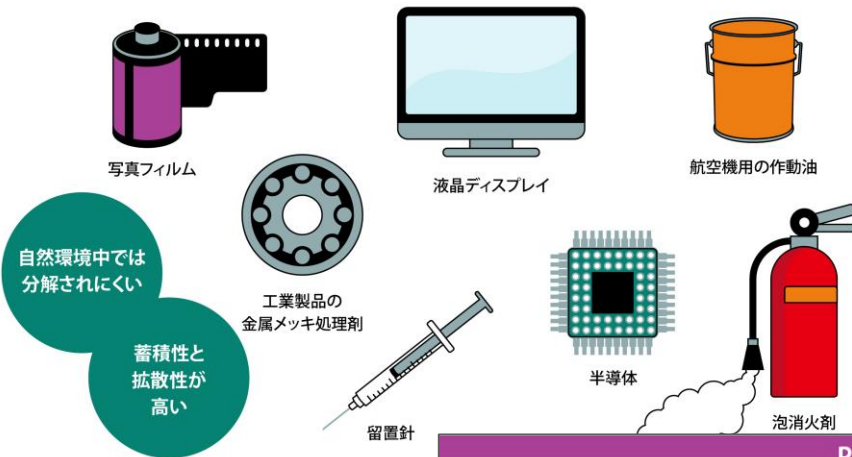
グローバルのPFAS規制動向

PFASの定義は、国の機関により異なる。

- **OECD**：PFASは、少なくとも1つの完全にフッ素化されたメチル炭素原子またはメチレン炭素原子(H/Cl/Br/I原子が結合していない)を含むフッ素化物質として定義。
 - Source : OECD_2021.7.9: https://www.oecd.org/en/publications/reconciling-terminology-of-the-universe-of-per-and-polyfluoroalkyl-substances_e458e796-en.html
 - Abbreviation : OECD : Organization for Economic Co-operation and Development (経済協力開発機構)

PFOSとは？

PFAS(有機フッ素化合物)の一種であるペルフルオロオクタンスルホン酸のこと。通称はピーフォス。
工場のような厳しい条件下でも耐える強力な物質で「永遠の化学物質」と呼ばれる。



PFOAとは？

PFAS(有機フッ素化合物)の一種であるペルフルオロオクタン酸のこと。通称はピーフォア。
常温では液体として存在する物質で、私たちの身近な製品に使われてきた。



Source : PFAS MEDIA

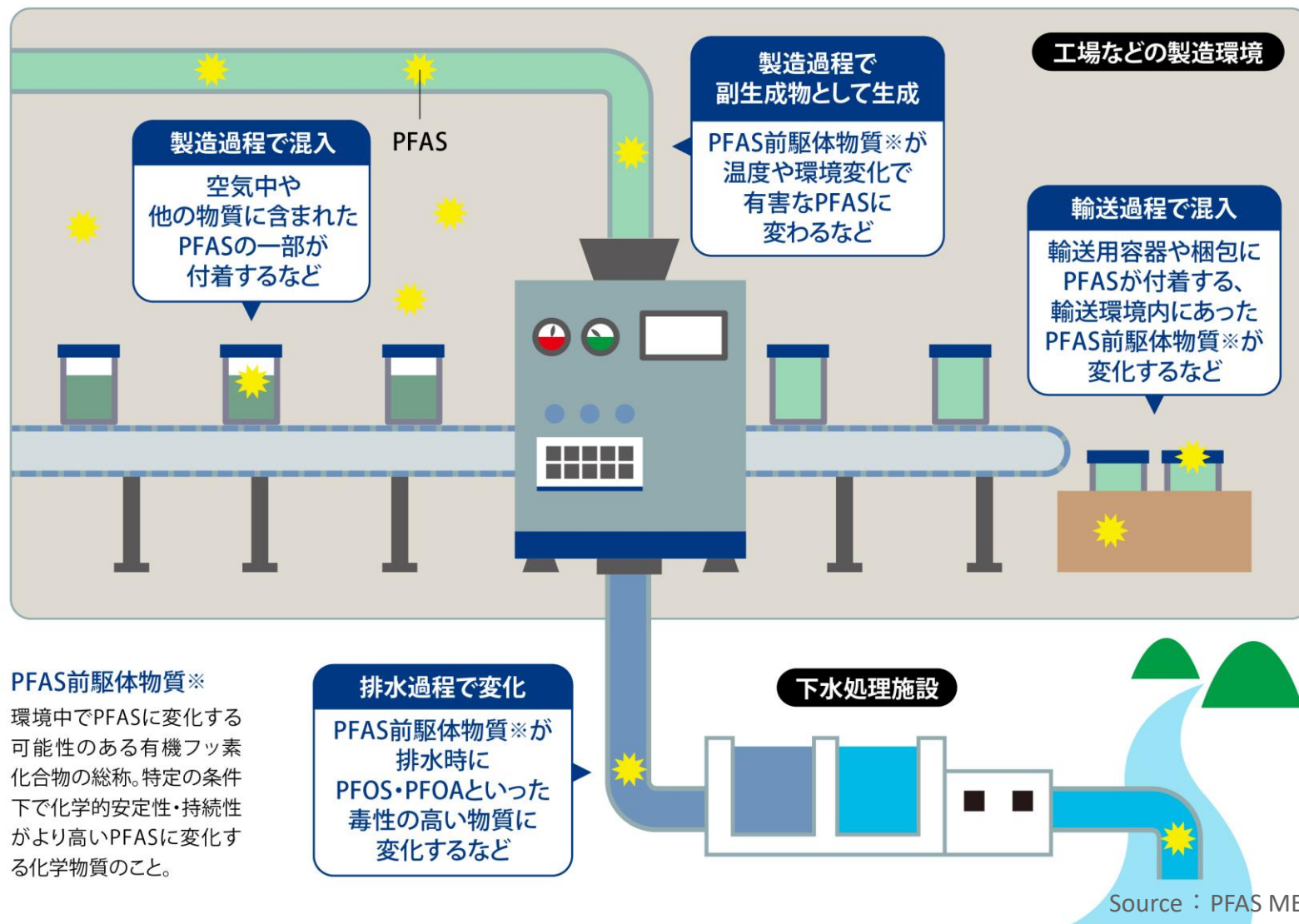
PFHxAとは？

PFAS(有機フッ素化合物)の一種であるペルフルオロヘキサン酸のこと。
撥水・撥油性を持ち、泡消火薬剤、金属メッキ、織物、研磨剤、洗浄剤、などに使用されてきた。



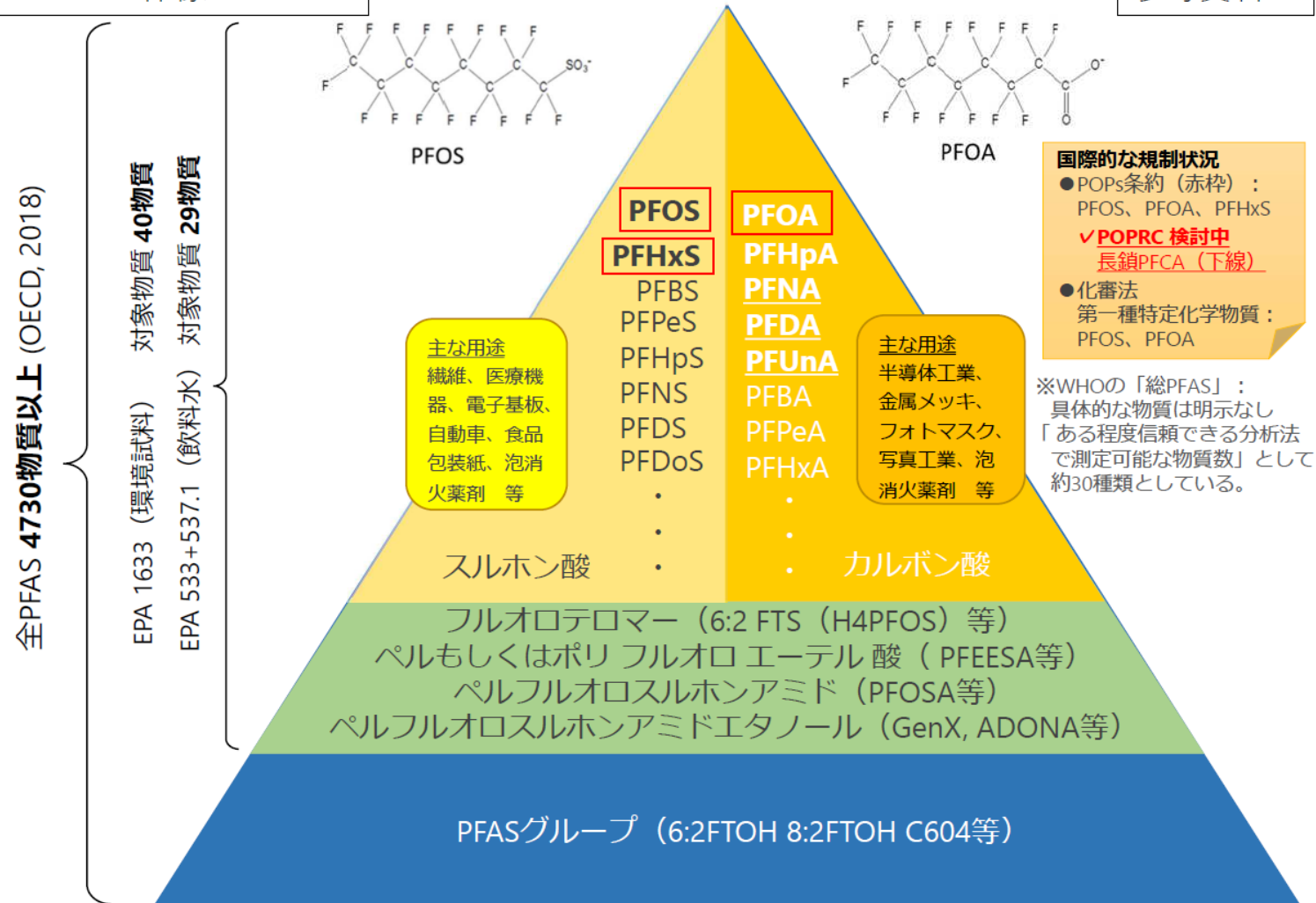
PFOA → **PFHxA**
2019年に POPs条約で規制
PFOAと同様の性質 代替品として使用

製造環境におけるPFAS混入経路



PFASの全体像について

参考資料 1



出典 : ITRCのPFASホームページ図2-16 (<https://pfas-1.itrcweb.org/2-3-emerging-health-and-environmental-concerns/>) を改変



PFAS規制提案（ECHA）

- PFASを物質、混合物、および成形品として製造、使用、および市場に出すことを禁止。
 - 1種類のPFAS: 25 ppb（標的分析）
 - 複数の合計PFAS: 250 ppb（オプションで前駆体分解を含む）
 - 総フッ素含有量: 50 ppm（ポリマーPFASを含む）
 - Source：ECHA_2025.8.20: <https://www.echa.europa.eu/-/echa-publishes-updated-pfas-restriction-proposal>
 - Abbreviation：ECHA：European Chemicals Agency（EU：欧州化学機関）



1), REACH規則

- 化学物質によるリスクから人の健康と環境を守るために制定されたEUの規則。
- **REACH規則の制限対象物質（附属書XVII）には複数のPFASが掲載されており、使用制限の対象。**
- また、2025年1月にはSVHC（高懸念物質）の候補リストにペルフルオロトリプロピルアミンが追加。

制限対象物質（附属書XVII）に記載されているPFAS

- PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）
- PFOA（ペルフルオロオクタン酸）
- PFNA（ペルフルオロノナン酸）
- PFHxA（ペルフルオロヘキサン酸）
- PFHpA（ペルフルオロヘプタン酸）
- PFDA（パーフルオロデカン酸）
- C9～C14 PFCA（ペルフルオロカルボン酸）

SVHC（高懸念物質）候補リストに含まれるPFAS

- PFOA（ペルフルオロオクタン酸）
- PFHxS（ペルフルオロヘキサンスルホン酸）
- C9～C14 PFCA（ペルフルオロカルボン酸）
- PFBS（ペルフルオロブタンスルホン酸）
- HFPO-DA（ヘキサフルオロプロピレンオキシドダイマー酸、通称：GenX）
- PFHpA（ペルフルオロヘプタン酸）
- ペルフルオロトリプロピルアミン

- Source：ECHA [Substances restricted under REACH](#)



2), POPs規則

- 残留性有機汚染物質（**POPs**）による環境および人の健康への悪影響を防ぐために制定されたEUの規則。
- 附属書I（Part A）には**3種類のPFAS**が収載され、EU域内における物質の製造・上市・使用を原則禁止。

附属書I（Part A）XVII）に収載されているPFAS

- PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）
- PFOA（ペルフルオロオクタン酸）
- PFHxS（ペルフルオロヘキサンスルホン酸）

- Source : [Regulation \(EU\) 2019/1021 of the European Parliament and of the Council of 20 June 2019](#)



3), EU飲料水指令 (DWD：Drinking Water Directive)

- 2026年1月12日までに、以下、少なくとも1つを満たす必要があり
 - PFAS全体合算値：0.50µg/L (= 500ng/L)を超えない
 - 20種PFAS合算値：0.10µg/L (= 100ng/L)を超えない
- これら20種については、DWD附属書IIIで定義。
- 各EU加盟国はこの基準を元に対応を進めるが、国内法の運用には差あり。

規制内容	最大許容濃度	対象PFAS
PFAS全体	0.50 µg/L	全てのPFAS
特に懸念されるPFAS (20種類)	0.10 µg/L	PFBA, PFPA, PFHxA, PFHpA, PFOA, PFNA, PFDA, PFUnDA, PFDoDA, PFTrDA, PFBS, PFPS, PFHxS, PFHpS, PFOS, PFNS, PFDS, PFUnDS, PFDoDS, PFTrDS

- Source： [Directive \(EU\) 2020/2184 of the European Parliament and of the Council of 16 December 2020](#)



4), 水枠組み指令（WFD）・地下水指令（GWD）

- 水枠組み指令（WFD）は、地表水（河川・湖・沿岸水・移行水など）の保全を目的とし、水生生態系の悪化防止と改善を図るEUの枠組み法。
- WFDは廃棄物の枠組みや分類に関する規定が定められており、**PFASを直接的に規制する内容は記載なし**。
- しかし、**WFDの規制対象を記載した附属書Ⅲ（Annex Ⅲ）の「生態毒性（HP14）」という分類に、PFASが該当する可能性あり**。
- この分類に適用されたPFAS含有廃棄物は、一般廃棄物ではなく有害廃棄物として扱われることになり、廃棄物ヒエラルキーに基づいた処理を要求される可能性あり。
 - Source：PFAS MEDIA_2025.7.18 [EUのWFD（廃棄物枠組指令）とは？PFAS含有廃棄物の管理方法](#)
 - Abbreviation：WFD：Water Framework Directive（EU：水枠組み指令）
 - Abbreviation：GWD：Groundwater Directive（EU：地下水指令）
- **地下水指令（GWD）は、地下水汚染防止のため、PFASを含む有害物質の濃度基準を設定**。
 - Source：PFAS MEDIA_2025.6.6 [【2025年施行】EUで進むPFAS規制強化 | 組織・規則の動向まとめ](#)



5), 食品安全規制

- EUでは食品を通じたPFASの摂取リスクを低減するために、2023年1月から最大残留基準（MLs）を導入。
- （Regulation (EU) 2022/2388）対象となるPFASは、PFOA・PFOS・PFNA・PFHxSの4物質であり、魚介類、卵、肉類、内臓などの食品カテゴリごとに具体的な上限値が設定。
- 本規制は欧州食品安全機関（EFSA）が2020年に示した耐容週間摂取量（TWI：4.4 ng/kg/週）に基づいたものであり、EU加盟国はこれに準じて監視と規制を実施。
 - Source： [Commission Regulation \(EU\) 2022/2388 on maximum levels of perfluoroalkyl substances in certain foodstuffs](#) | [EUR-Lex](#)
 - Abbreviation：MLs：Maximum Levels（最大残留基準）
 - Abbreviation：EFSA：European Food Safety Authority（EU：欧州食品安全機関）
 - Abbreviation：TWI：Tolerable Weekly Intake（耐容週間摂取量）



EU

- 2025年8月 ECHAは、2023年1月に提出された「広範囲なPFAS規制に関する提案」を見直して第14版のパーおよびポリフルオロアルキル物質（PFAS）に関する**制限提案を更新**。
- ✓ 当初の提案では具体的に挙げられなかった**8つのセクターを特定**：
 - ✓ 印刷用途
 - ✓ シーリング用途
 - ✓ 機械用途
 - ✓ 医薬品の即時包装や賦形剤などのその他の医療用途
 - ✓ 軍事用途
 - ✓ 爆発物
 - ✓ テクニカルテキスタイル
 - ✓ 溶剤や触媒などの幅広い工業用途
 - ✓ 代替的な規制オプションも検討。(PFASの製造、市場への投入、または使用の継続を許可する条件)
 - ✓ PFAS 製造、輸送、電子機器および半導体、エネルギー、シーリング用途、機械用途、テクニカルテキスタイル

Source [ECHA publishes updated PFAS restriction proposal](#)

Abbreviation ECHA：European Chemicals Agency（EU：欧州化学機関）



EU

- 2025年10月
- 欧州委員会（EC）は、泡消火剤中のパーフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物に関する欧州議会および理事会規則（EC）No 1907/2006の附属書xviiを改正。**
- ✓ **2030年10月23日以降、PFASの合計濃度が1 mg/L以上の泡消火剤は、市場への投入・使用を禁止。**
 - ✓ **すべてのPFASの合計が1mg/L以上の濃度でも、以下期日まで市場に流通することができる。**
 - ✓ **2026年10月23日まで：携帯用消火器内の泡消火剤。**
 - ✓ **2027年4月23日まで、携帯用消火器内の耐アルコール性泡消火剤。**
 - ✓ **2035年10月23日まで、一部のリスクの高い施設での泡消火剤：
沖合石油・ガス産業に属する施設、軍艦、2025年10月23日までに泡消火剤を搭載した民間船舶**
 - ✓ **民間航空（民間空港を含む）は、この例外規定の対象外。**

Source [Regulation - EU - 2025/1988 - EN - EUR-Lex](#)

Abbreviation EC：The European Commission（EU：欧州委員会）

PFASに対するEPA（米国の環境保護庁）の主な取り組み



2006

- ・ PFOAの製造を段階的に廃止するために業界と連携してPFOA管理プログラムを作成

2016

- ・ 飲料水に関するPFOS / PFOAに関する健康勧告を発表

2019

- ・ PFOA / PFOSに汚染された地下水に対処するための暫定勧告

2021

- ・ PFOA / PFOSに関する国家飲料水基準の制定
- ・ 2011年以降のすべてのPFAS製造業者（輸入業者を含む）に特定のPFASの使用方法などを義務付け
- ・ PFAS汚染に対処するための包括的な戦略ロードマップを発表

2022

- ・ PFOA・PFOSの有害物質指定の提案

2023

- ・ PFAS分析ツール公開
- ・ 最終排水制限ガイドライン計画15を発表
- ・ 不活性PFAS（推定300種類）重要新規使用規則を提案
- ・ 米国で製造・使用されるPFAS報告の義務付、毒性物質排出目録報告を強化する最終規則を公表

2024

- ・ 不活性PFASに関する最終的な重要な新規使用規則を決定（329種類）
- ・ 米国政府の保管契約からPFASを削減する措置
- ・ PFASに関する初の国家飲料水基準を発行
- ・ PFOA / PFOSの最終CERCLA有害物質指定

2024：飲料水規制

- ✓ PFOA/PFOS：MCL各々4ng/L、MCLG各々ゼロ→2025：遵守期限延長：2029年→2031年
- ✓ PFHxS/PFNA/GenX(HFPO-DA)、PFBS混合→2025：撤回・再検討

Source：PFAS MEDIA

Abbreviation

EPA：Environmental Protection Agency（米国：環境保護庁）

CERCLA：Comprehensive Environmental Response, Compensation, and Liability Act（米国：包括的環境対応・補償・責任法）

MCL：Maximum Contaminant Levels（米国：最大汚染物質濃度）

MCLG：Maximum Contaminant Level Goals（米国：最大汚染物質濃度目標）

PFAS規制事例：Europe



2022：DWD：飲料水：2026年1月12日～
少なくとも以下1つを満たす
✓ 全PFAS合算値<500ng/L
✓ 20種PFAS合算値<100ng/L

2025：欧州POPs規則に基づき、PFOS、
PFHxS、PFOAが規制対象、泡消火剤に含
まれるPFOAは、2025年7月に禁止。

2023：飲料水制限値：
4種PFAS：4 ng/L、21種 PFAS：100 ng/L

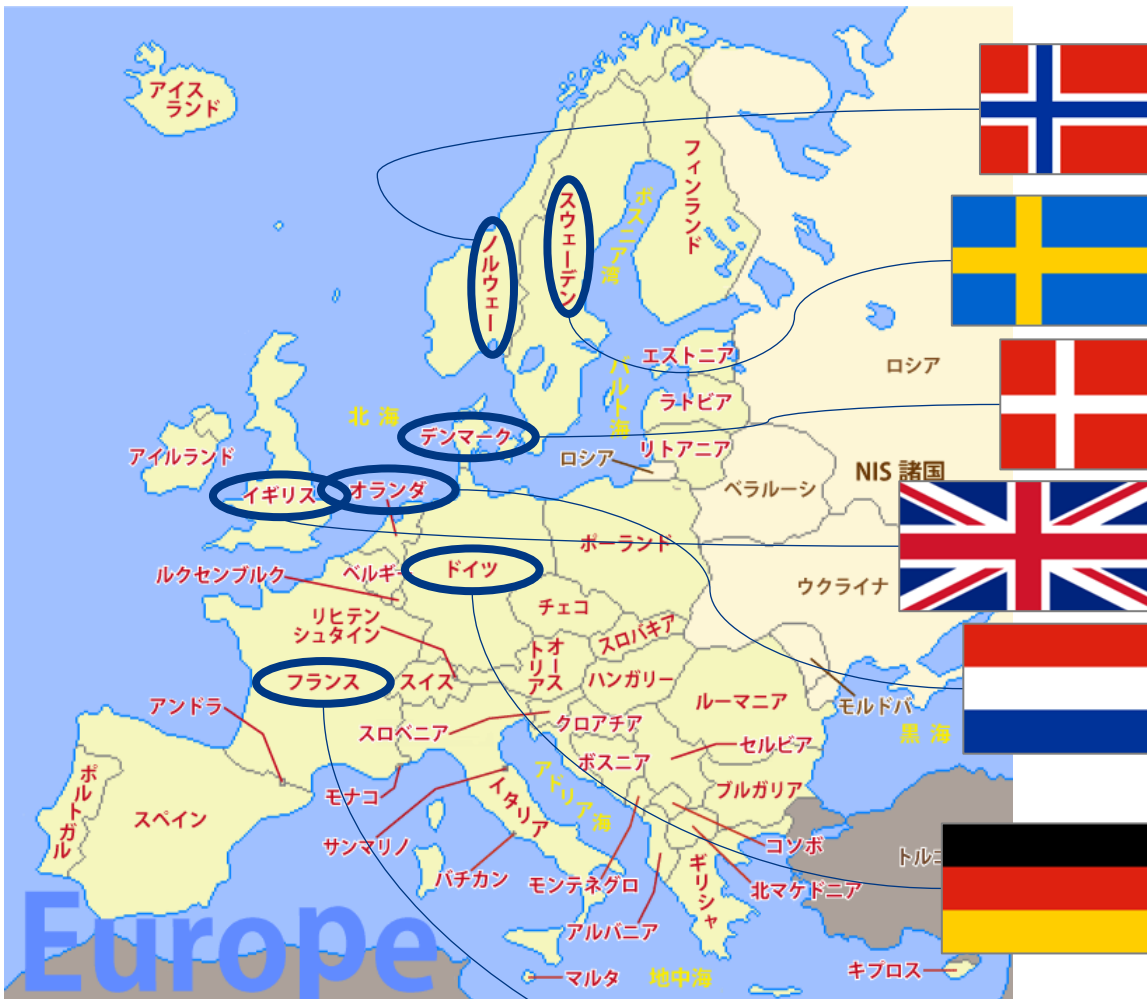
2022：飲料水制限値：
4種PFAS：2ng/L、22種PFAS：100ng/L

2025：飲料水：48種PFAS（47種＋
6:2FTAB）、100ng/Lの累積制限値

2022：飲料水指標値：4.4ng PEQ/L

2023：飲料水指針値：
✓ PFOS：100ng/L、PFOA：100ng/L
2023年、以下採択提案。
✓ 20種PFAS合算値：100、2026年適用
✓ 4種PFAS合算値：20、2028年適用

2026：飲料水：20種PFAS合算値<100ng/L
2026：PFAS法（Loi PFAS）：化粧品、衣料
品、ワックスなどの製品：製造・輸入・輸
出・市場投入が原則禁止。



PFAS規制事例：North America / Oceania

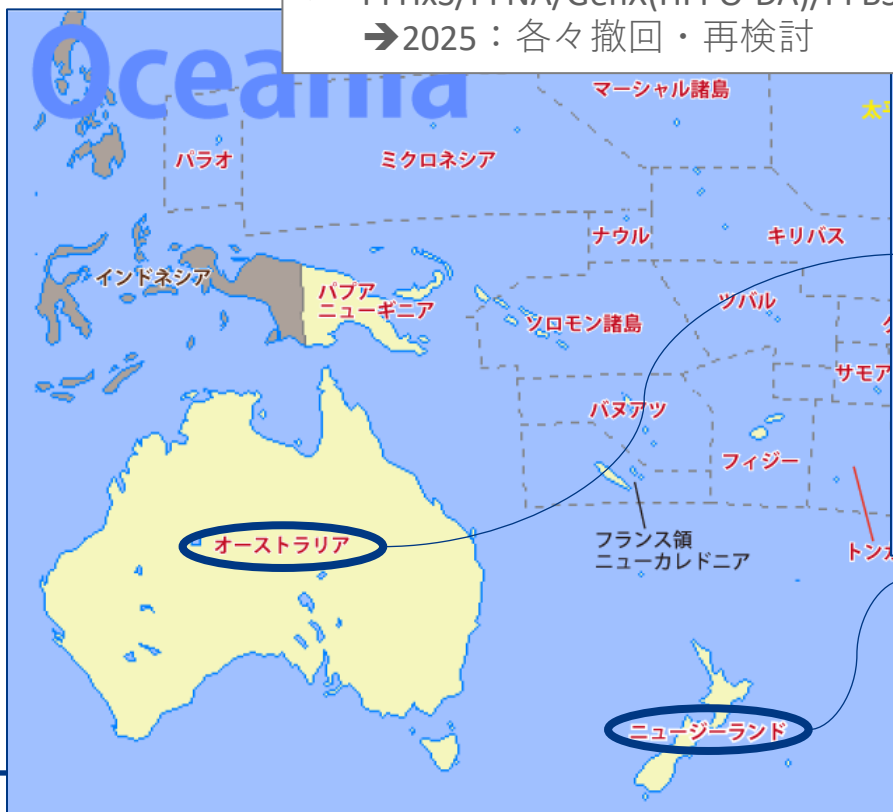


- 2024：飲料水：PFAS暫定目標値
- ✓ 対象：主要25種PFASの総和
 - ✓ 目標値：30 ng/L



2024：EPA：飲料水規制：最大汚染物質濃度(MCL)、最大汚染物質濃度目標(MCLG)

- ✓ PFOA/PFOS：MCL：各々4ng/L、MCLG：各々ゼロ→2025：遵守期限：2029年→2031年に延長
- ✓ PFHxS/PFNA/GenX(HFPO-DA)/PFBS混合→2025：各々撤回・再検討



- 2025：NHMRC：飲料水ガイドライン
- ✓ PFOS：8ng/L、PFOA：200ng/L、PFHxS：30ng/L、PFBS：1,000ng/L



- 2022：飲料水基準の暫定最大許容量
- ✓ PFOS：70ng/L、PFOA：560ng/L、PFHxS + PFOS合算値：70ng/L
- 2023：従来のPFAS泡消火剤使用禁止
- 2026：PFAS泡消火剤の封じ込められた使用禁止
- 2027：化粧品の製造・輸入におけるPFAS使用禁止
- 2028：化粧品販売におけるPFAS使用禁止
- 2028/6月末：残PFAS含有製品の廃棄期限

PFAS規制事例：ASIA



2026年：PFOS及びPFOAを水質基準に追加。基準値は合算で50ng/L



2019年：PFOS、PFOA、PFHxSの製造と使用を規制対象。一部特定用途は、2026年6月2日まで免除。



2023年：PFOSに加え、PFOA、PFHxSも新汚染物質として指定。無許可での取り扱いは禁止。2024年1月から輸入および輸出は禁止。



2024年：飲用水水質基準：PFOA + PFOS 合算値50ng/L以下。

2024年：PFOS、PFOAに続き、PFHxSも特定化学物質に指定。届出義務有り。



2025：食品安全基準（包装）規則の改正案を公表、以下追加

- ✓ 食品接触材料製造にPFAS使用禁止
- ✓ 食品接触材料にBPAを含むこと禁止



2022：PFOAが第4種有害物質に指定。
2023：PFHxSが第3種有害物質に指定。



2022：PFOAの製造・輸出・輸入禁止
2023：PFHxSの製造・輸出・輸入禁止
2025：PFOS・PFOA・PFHxSのいずれかを
含む泡消火薬剤の輸入・使用禁止



2023：PFAS化合物を、あらゆる形態の食品包装で使用禁止を提案。

飲料水に係るPFASの目標値 (1/3)



国	公表年	内容
EU : DWD 2020/2184	2020	2026 年 1月12日～少なくとも以下1つを満たす ✓ 全PFAS合算値：500ng/Lを超えない ✓ 20種PFAS合算値：100ng/Lを超えない ※20種：PFBA, PFPA, PFHxA, PFHpA, PFOA, PFNA, PFDA, PFUnDA, PFDoDA, PFTrDA, PFBS, PFPS, PFHxS, PFHpS, PFOS, PFNS, PFDS, PFUnDS, PFDoDS, PFTrDS
イギリス	2025	飲料水基準：48種PFAS合算値：100ng/Lの累積制限値 ※48種：47種、6:2FTAB 6:2
オランダ	2022	飲料水指標値：4.4ng PEQ/L
スウェーデン	2021	4種PFAS合算値：4ng/L ※4種：PFOS、PFOA、PFNA、PFHxS 21種PFAS合算値：100ng/L ※21種：C=4～13 の各 PFCA、PFSA、+ 6:2FTS
デンマーク	2022	4種PFAS合算値：2ng/L ※4種：PFOS、PFOA、PFNA、PFHxS 22種PFAS合算値：100ng/L ※22種：C=4～13 の各 PFCA、PFSA、+ 6:2FTS、FOSA
ドイツ	2017	PFOS、PFOA：各々100ng/L 2023年、国内法で以下採択 ✓ 2026年：20種PFAS合算値：100ng/L ※20種：C=4～13 の各 PFCA、PFSA ✓ 2028年：4種PFAS合算値：20ng/L ※4種：PFOS、PFOA、PFNA、PFHxS
フランス	2023	PFOA：100ng/L ✓ 2026 年 1月：20種PFAS合算値：100ng/L ※EU規制に基づく

Source: 環境省_2024.8 [環境省「PFOS、PFOAに関するQ&A集」](#)
 DWD_2020.12.16 [Directive \(EU\) 2020/2184 of the European Parliament and of the Council of 16 December 2020](#)
 食品安全委員会_2022.10.19 [食品中のPFASに関するオランダの飲料水調査報告 \(syu05940040164\)](#)
 UK_2025.6.2 [UK Regulation and remediation of 'forever' chemicals](#)

飲料水に係るPFASの目標値 (2/3)



国	公表年	内容
米国/EPA	2024	PFOS、PFOA：(MCL)各々4ng/L、(MCLG)各々ゼロ ✓ 2025：維持表明、ただし、遵守期限延長：2029年 → 2031年 PFHxS、PFNA、HFPO-DA (通称GenX Chemicals)：(MCL/MCLG)各々10ng/L ✓ 2025：各々撤回・再検討表明 PFHxS、PFNA、HFPO-DA、PFBSのうち2種以上を含む混合物：ハザード指数1 ✓ 2025：各々撤回・再検討表明
カナダ	2024	25種PFAS合算値：30 ng/L
オーストラリア/NHMRC	2025	飲料水ガイドライン PFOS：8ng/L PFOA：200ng/L PFHxS：30ng/L PFBS：1,000ng/L
ニュージーランド	2022	飲料水基準の規制当局移行先：Taumata Arowai（タウマタ・アロワイ）が、暫定最大許容量（Interim MAV）を設定 PFOS：70ng/L PFOA：560ng/L PFHxS、PFOS合算値：70ng/L

Source:

環境省_2024.8 [環境省「PFOS、PFOAに関するQ&A集」](#)

US_EPA_2025.5.14 <https://www.epa.gov/sdwa/and-polyfluoroalkyl-substances-pfas>

CAN_2024.8.9 [Objective for Canadian drinking water quality per- and polyfluoroalkyl substances - Canada.ca](#)

AUS_NHMRC_2025.6.25 <https://www.nhmrc.gov.au/health-advice/environmental-health/water/PFAS-review>

NZL Taumata Arowai 2022.6.7 [Water Services \(Drinking Water Standards for New Zealand\) Regulations 2022](#)

CONFIDENTIAL AND PROPRIETARY - © Eurofins Scientific (Ireland) Ltd [2020]. All rights reserved. Any use of this material without the specific permission of an authorized representative of Eurofins Scientific (Ireland) Ltd is strictly prohibited.

飲料水に係るPFASの目標値 (3/3)

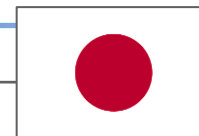


国	公表年	内容
WHO	2022	暫定ガイドライン値として PFOS、PFOA：各々100ng/L 総PFAS：500 ng/L
日本	2020	PFOS、PFOA合算値：50ng/L ✓ 2026.4：水質基準へ引上げ
Source:	環境省_2024.8 環境省「PFOS、PFOAに関するQ&A集」 環境省_環境省_参考資料1－6①1 PFOS、PFOAに係る国際動向 1 POPs 条約等)	

略語

Abbreviation	DWD：Drinking Water Directive (EU：飲料水指令) EPA：Environmental Protection Agency (米国：環境保護庁) Interim MAV：Maximum Acceptable Value (暫定最大許容量、ニュージーランド) MCL：Maximum Contaminant Levels (米国：最大汚染物質濃度) MCLG：Maximum Contaminant Level Goals (米国：最大汚染物質濃度目標) NHMRC：National Health and Medical Research Council (オーストラリア：国立保健医療研究評議会) PEQ：PFOA equivalents (当量、オランダ)
--------------	--

日本のPFASの規制状況と課題



日本	内容
2020年4月	薬生水発0330第1号：水道水質管理目標設定項目にPFOS及びPFOAを追加 ✓ PFOS+PFOA合算50ng/L
2020年5月	環水大発第 2005281 号 / 環水大土発第 2005282 号：水道水質環境基準健康項目にPFOS及びPFOAを追加 ✓ 暫定指針値 PFOS+PFOA合算50ng/L以下
2021年4月	環境基準健康項目専門委員会（第19回）要監視項目にPFHxS追加
2022年5月	「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準等の施行等について（通知）」：要監視項目にPFOS及びPFOAを追加
2023年2月	水濁法施行令改正：指定物質にPFOS及びPFOAを追加 ✓ 汚染水（排出水）及び地下に浸透する汚染水に対する規制の有害物質には指定されず
2024年2月	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）： 第一種特定化学物質にPFHxSを指定、製造・輸入・製品への使用禁止
2024年6月	有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価書：食品安全委員会がTDIを設定 ✓ PFOS及びPFOA：各20ng/kg体重/日
2024年7月	化審法第25条：「医薬品の製造を目的としたPFOBの製造のためのPFOIの使用」及び「侵襲性及び埋込型医療機器の製造を目的としたPFMAの製造のための8:2FTOHの使用」を第一種特定化学物質の使用を認める用途として指定
2025年9月	水道水質基準：要検討項目 現行PFHxSに、PFBS、PFBA、PFPeA、PFHxA、PFHpA、PFNA、HFPO-DA（通称GenX）を追加
2026年4月	水道水質基準：PFAS規制改正 ✓ 水質基準 PFOS及びPFOAを水質基準に追加。基準値は合算で50ng/L ✓ （水質管理目標設定項目 対象リストからPFOS及びPFOAを削除） ✓ Source：環境省 水道水質基準について

2022：DWD：飲料水：2026年1月12日～

PFAS規制事例：ASIA



2026年：PFOS及びPFOAを水質基準に追加。基準値は合算で50ng/L



2019年：PFOS、PFOA、PFHxSの製造と使用を規制対象。一部特定用途は、2026年6月2日まで免除。



2023年：PFOSに加え、PFOA、PFHxSも新汚染物質として指定。無許可での取り扱い禁止。2024年1月から輸入および輸出は禁止。



2024年：飲用水水質基準：PFOA + PFOS 合算値50ng/L以下。

2024年：PFOS、PFOAに続き、PFHxSも特定化学物質に指定。届出義務有り。



2025：食品安全基準（包装）規則の改正案を公表、以下追加

- ✓ 食品接触材料製造にPFAS使用禁止
- ✓ 食品接触材料にBPAを含むこと禁止



2022：PFOAが第4種有害物質に指定。
2023：PFHxSが第3種有害物質に指定。



2022：PFOAの製造・輸出・輸入禁止
2023：PFHxSの製造・輸出・輸入禁止
2025：PFOS・PFOA・PFHxSのいずれかを
含む泡消火薬剤の輸入・使用禁止



2023：PFAS化合物を、あらゆる形態の食品包装で使用禁止を提案。

CONFIDENTIAL AND PROPRIETARY - © Eurofins Scientific (Ireland) Ltd [2020]. All rights reserved. Any use of this material without the specific permission of an authorized representative of Eurofins Scientific (Ireland) Ltd is strictly prohibited.

Title: Presentation title Document Name: PowerPoint template (4-3) MASTER DRAFT EDR: N/A Document owner: Rachel Lopez Last modified on: 11.09.2020

CONFIDENTIAL AND PROPRIETARY - © Eurofins Scientific (Ireland) Ltd [2020]. All rights reserved. Any use of this material without the specific permission of an authorized representative of Eurofins Scientific (Ireland) Ltd is strictly prohibited.

飲用水の事例では

- 海外諸国、特に、欧米のPFAS規制では、総括的に『多項目』『総フッ素』をターゲットに数値やガイドラインが設定されている
- 一方の日本は
 - 水道水質基準で『PFOS及びPFOA』の2項目の、基準値：合算50ng/Lのみとなっている
 - 現行PFHxSに、PFBS、PFBA、PFPeA、PFHxA、PFHpA、PFNA、HFPO-DA（通称GenX Chemicals）は、要検討項目に追加されている
- **【提案】** 今後の日本での規制対象拡大に備え、先ずは、現状把握をする為に、今後の予算検討の為に、『多項目』の分析は如何でしょうか。

(飲用水以外についても同様に)

- 海外諸国では、アジアも含め、製品（泡消火剤、食品包装材、化粧品など）についても、厳しい規制が敷かれる傾向にある
- **【提案】** 海外市場ビジネスも視野に入れていらっしゃる企業様に、
 - 製品系は、弊社グループ会社：ユーロフィンプロダクトテストティングへ相談を
 - 更に、該当製品の国内製造拠点での環境分析（環境水、土壌、排ガスなど）を事前に現状把握をご希望でしたら、当社：ユーロフィン日本環境へ、ご相談ください。

ご清聴、有難うございました。